

新人職員リズム研修 5/25

昨年度は集まっの研修ができなかったのですが、各園新人職員が増えていく中、リズムの基本を学び合おうと、今年度は感染対策をしながら5月に新人職員リズム研修を行い、35名の新人職員が参加しました。

こばと保育園の錦織さんに講師をお願いし、さくら・さくらんぼのリズムあそびのめざすもの、リズムのねらいなどについての話を聴いてから、基本のリズムを介助の仕方も含めながら園長も入って行いました。後半は年長リズムや二人組のリズムも取り入れ、リズムの曲に合わせて動く楽しさを共感したひと時でした。参加者からも次のような感想が出ていました。

他の参加者の方のリズムを見ることで、自分自身の刺激になり、素敵なりズムがしたいと思いましたし、楽しくいきいきとリズムをすることで、子どもたちに“こんなリズムがしたい”“ちょっとやってみようかな”と思ってもらえるようになりたいと思いました。

コロナ禍でなかなか実践的な学習する場が少なく、日々の保育の中で悩み考え、自分なりに実践し、文献を参考にしながら過ごしてきた1年目でした。今回リズム研修に参加させて頂き、これからの保育の糧となることを吸収させてもらい、とても有意義な研修になりました。

わかたけ保育園年長キャンプ



飛び込みができる場所があり、水は冷たかったのですが、歓声を上げながら暑い夏を楽しんでいました。朝は、ヒグラシが一斉に鳴き始めその鳴き声で子どもたちも目覚め、自然の中で生きている実感が湧いてくる一コマでした。例年だと、年長の保護者にも声をかけ、子どもたちの活動ももっとダイナミックな活動になるのですが、去年今年とその面では自粛をしたため残念でした。コロナ感染が落ち着けば、また、再開をしたいと考えています。



松江市 わかたけ保育園

今年も、7月16・17日と1泊2日で年長キャンプに出かけてきました。大自然の中で、自分達でテントを張り、焚き木集めや夕食の食材切りに飯盒でのご飯炊きなど、キャンプならではの経験を楽しんでほしいというねらいからでした。

キャンプ地は、雲南市大東桃源郷で、松江から片道約1時間ほどの山間にあります。夏休み前で貸し切り状態でしたので、コロナ感染の心配もなくその点では安心してできたのではないかと思います。

水が綺麗で、子どもたちは自分たちで作った虫取り網をもって、魚や昆虫を見つけ大自然を満喫していました。

キャンプ合宿 7/31~8/1

松江市・こばと保育園

ばら組(4歳児24名)ほし組(5歳児26名)安来市広瀬町山佐ダムへ一泊二日のキャンプに行きました。一日目の午前中は川遊びをしました。今年は雨続きで川遊びに行くことが出来ず、今年初めての川遊びとなりました。

お父さんたちが見守ってくれる中、川しじみ取りや、魚を捕まえようと、夢中になって追いかけて遊んでいました。

また、流れに身を任せ川のプールを楽しんだり、お父さん達に投げ飛ばしてもらったりしてワクワクドキドキして遊ぶことが出来ました。



午後からは年長は夕飯のカレー作り、ばら組は虫取りをしました。涙を流しながら玉ねぎを切ってくれたり、畑で収穫した野菜をピーラーで皮をむいてくれました。ご飯はお父さん達が飯盒で炊いてくれました。夏野菜カレーはとびきり美味しく、飯盒で炊いたご飯もサラダも全て完食でした。

さて、いよいよキャンプファイヤーです。段々と日が落ちる中、みんなで星めぐりの歌など歌っていると、「一番星だ!」と子どもたち。星の数が増えていくと火の精の誕生です。

子どもたちの息を呑む音が聞こえてきそうな静寂の中、火の精からもらった「優しさの火」「考える火」「勇気の火」キャンプファイヤーに火をつけると一気に空まで燃え上がりました。子どもたち、しっかりと目に焼き付けていました。

その夜はお父さんたちが設営してくれた10張のテントでお泊りをしました。「小さなうちみたいだね。」と可愛いつぶやきもありました。沢山遊んで疲れて眠った次の日の朝、子どもたちの顔がたくましくなったように感じました。ほし組は年長としてばら組をまとめ自信を持ち、ばら組はほし組に助けてもらい、優しい年長に憧れをもちます。沢山のお父さんや保育士に見守られながら、忘れることのできない体験ができたのではないかと思います。

コロナ禍の中でも感染対策を行いながら、キャンプが出来たことを大変うれしく思います。



ひまわり第1保育園 ヤマメのつかみ取り

出雲市 ひまわり第1保育園

今年度、コロナ禍でもできる自然に触れる体験をさせてあげたいと思い、保護者会の役員さんに相談し、園庭でヤマメのつかみ取りをすることにしました。保護者さんには生けすを作る手伝いをしてもらいました。

当日無事に完成した生けすにヤマメを運んできてもらい放します。3, 4, 5 歳児がつかみ取りをしました。生きている魚が泳いでいる水の中に入るだけでも市街地に住んでいるわが園の子どもたちにはドキドキの経験ですが、それを捕まえるとなると勇氣と素早さと知恵が必要になります。最初はただ追い掛け回していたのが、慣れてくるとまわりの子と協力してふちに迫いつめて捕まえていました。

年長児は割り箸を使って自分たちで内臓を取り出し、自分たちでつくった竹串に刺し炭火で焼きます。予想以上に焼くことも難しく、苦心の末焼けたヤマメは香ばしくて子どもたちもよく食べ、命をいただくという貴重な経験にもなりました。



須佐太鼓を鑑賞しました

出雲市 ひまわり第2保育園

出雲市には、県内外だけでなく海外でも公演を行い、力強い太鼓で郷土芸能・文化を伝えている「さだ須佐太鼓」という団体があります。園では、夏祭りの日にこの須佐太鼓を招き、近隣の方も集まって代表演目の「目田鬼面太鼓」を観るのが毎年恒例でした。コロナ禍で去年はあきらめたのですが、今年は3歳以上児だけでも、親子で観る機会を持ちたくお願いし、広い体育館での太鼓鑑賞が実現しました。

園のホールほど間近ではなかったのに、迫力は十分。子どもも大人も、鬼の登場からスサノオに退治されるまでの展開を息をのんで観ていました。腹の底から響き渡る太鼓の音色は、久しぶりに生の感動をもたらしてくれました。その半月後に、園内での夏祭りをしましたが、須佐太鼓に刺激を受けた私たちは、大人も子どもも「あんなふうにとたたきたい!」と思い切り楽しんで太鼓を披露したのでした。

